

大学生のギフトの選択基準とギフト意識

○ 辻幸恵*

風間健**

(*京都学園大)

(**武庫川女子大)

目的：本研究の調査対象は関西の大学に在籍する大学生である。彼等がいかなる基準を持って、ギフトを選択するのを見い出すことが本研究の第1の目的である。そのために贈る相手とその状況ごとに選択基準を設定し、そこに共通する要因を見い出す。また同時に、どのようなギフトを贈りたいのかということにも言及する。次にその共通要因から、汎用的な大学生のギフト意識を探究することが第2の目的である。

調査方法：大学生がギフトに関していかなる基準を持つのかを知るために質問票を作成した。この質問票を主に郵送法を用いて調査対象に配布した。質問票の一部は大学の授業内に配布して、その場で大学生からの回答を得た。

解析方法：本研究のデータは上記の質問票から得た大学生の回答である。それらのデータから主因子法による因子分析を用いて、ギフト観を構成する要因を明らかにした。

結果、考察：大学生のギフト選択基準は「相手の気持ち」「値段」「流行」などであった。汎用的な大学生のギフト意識の1つとしては次のようなことが挙げられた。大学生の多くは「相手がほしがるものをあげたい」という気持ちがあるにもかかわらず、一方では「欲しいものはもらうよりも自分で買いたい」という気持ちがある。また、ギフトというモノ自身よりも付随する価値（付加価値）を気にする。一方、形に残らない「おごり」というギフトに対しては、値段の多少にかかわらず、気持ちの負担が軽く、多くの大学生はそれを望んでいた。すなわち形に残らないモノを求める傾向が強いという結果を得た。形を有するものよりも状況を楽しむという傾向が見い出された。